

2018-2019 FIM世界耐久選手権最終戦“コカ・コーラ”鈴鹿8時間耐久ロードレース 第42回大会
MEDIA INFORMATION

2018-2019 FIM世界耐久選手権最終戦“コカ・コーラ”鈴鹿8時間耐久ロードレース 第42回大会 青木拓磨がバイクで走る“Takuma Rides Again”プロジェクト 前夜祭と決勝レース前セレモニーでデモ走行を披露

2019年7月25日(木)～28日(日)に鈴鹿サーキットにて開催される「2018-2019 FIM世界耐久選手権最終戦“コカ・コーラ”鈴鹿8時間耐久ロードレース 第42回大会」において、元WGPライダーの青木拓磨氏が、鈴鹿8耐前夜祭と決勝レース前セレモニーにおいて、デモ走行を披露します。

1995-96年に全日本ロードレース選手権2連覇、1997年にはWGP GP500クラスにフル参戦を開始し、デビューシーズンでランキング5位を獲得するなど、将来を嘱望された青木拓磨氏。しかし、1998年のオフシーズンテストの事故で、下半身に障がいを負い、バイクに乗ることができなくなりました。あれから22年。共に幼い頃からレースを競い合ってきた兄 宣篤氏・弟 治親氏の「もう一度 拓磨をレーシングバイクに乗せたい」という想いではじめたこのプロジェクト。イギリス製のハンドシフト装置をバイクに備え、今春からトレーニングを積み、準備を重ねてきました。3兄弟ともに表彰台を獲得した思い出の鈴鹿8耐で、青木拓磨氏にとって22年ぶりの鈴鹿サーキットの走行にチャレンジします。



(左から)青木宣篤、青木拓磨、青木 治親



7月9日鈴鹿サーキットで行われた試走の様子

青木拓磨がバイクで走る“Takuma Rides Again”プロジェクト

■開催日時: 7月27日(土) 鈴鹿8耐前夜祭内(19:00～)

■出演: 青木 宣篤/青木 拓磨/青木 治親

※時間は変更となる場合がございます。

※決勝レース前セレモニーの詳細については、決定次第ご案内いたします。

青木拓磨さんコメント

「久しぶりの鈴鹿サーキットでしたが、コースがところどころ変更されていて、MuSASHiシケインをまっすぐ行ってしまいました。でも、こうやって走ってみると、電子制御が発達した今のバイクの性能に改めて驚きました。ストレートでは250km/hぐらい出ていましたが、10年前のバイクでは無理だったかもしれません。

ヨーロッパでは障がいのある人でもレースを楽しんでいる人が多く、私が2020年にル・マン24時間耐久レースに出場を予定しているチームオーナーも四肢欠損した障がい者です。でも、その方は生きる目標を見出すために自らレースに挑み、ル・マン24時間にも出場しています。障がい者でもチャレンジするエネルギーが生きていく力になると教えてくれました。今回、私がバイクに乗って、私と同じように障害を負って二度とバイクには乗れないと諦めていた人にも『障がい者でもできるんだね』ということを知って欲しかった。障がい者になったからといってチャレンジする精神を止める必要はないということを、伝えていければと思います」



EWC PARTNER

2018-2019 FIM Endurance World Championship Final Round
The 42nd “Coca-Cola” Suzuka 8 Hours Endurance Race

SUZUKA CIRCUIT

7992 Ino-cho Suzuka city, Mie prefecture, 510-0295 Japan
Tel 81 59 378 1111 Fax 81 59 378 4568



OFFICIAL SPONSOR